

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

【6.1.1教育課程】

2004年に行われた神学部の学則改正が完成年度を迎えたのを機に、神学研究科においても、履修コース（キリスト教進学・伝道者コース、キリスト教思想・文化コース）を設けるよう学則改正を行った。研究領域を4つに再編し（聖書領域、歴史・文化領域、組織神学・思想領域、実践領域）、それぞれの領域で必修科目を設けて、学生がそれぞれの研究テーマを深めると共に、幅広くキリスト教について学ぶことのできるカリキュラムを編成した。

同時に、神学部・神学研究科設置の目的であるキリスト教伝道者の育成をさらに進めるために実践的な科目を設置した。

主として社会人学生や他領域からの進学者を念頭に、神学の基礎を学ぶ「基礎科目群」（学部科目と合併）を開設した。また、「外国語専門書講読」を開設し、その単位取得をもって、修士論文提出に必要な外国語学力認定を行うこととした。

【6.1.4単位互換／単位認定等】

単位互換については、学生本人と教員との間で十分な学修計画を立て、現行制度の活用を図っている。

一方、単位認定の新たな試みについては、その可能性を検討しているが、条件の設定が難しく、いまだ実現には至っていない。

【6.1.8生涯学習への対応】

大学院修了後、何らかの方法で職業人としての知識や能力の向上を目指した継続教育のプログラムを開発すべく、学外講座委員会を中心に検討し、2007年度に大学院生と若手卒業生を主な対象として従来の「教職セミナー」を再編し、「神学セミナー」を開催した。

エクステンション・プログラムについても、上記委員会で検討している。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

認証評価で指摘を受けた実習科目の充実については、2010年度にカリキュラムを改訂する時点で実現すべく、現在、カリキュラムワーキンググループと実践神学科目担当教員が協力して、内容や開講形態を精査している。

学内第三者評価

カリキュラム改定の目標が明確に把握できていて、その方向に沿った改善が進んでいる。大学院教育の重点を高度専門職業人養成に偏置することなく、キリスト教思想・文化コースの充実にも注力することが、将来の大学院において好結果を残すものと考えられる。

また、認証評価の総評にある「キリスト教の伝道者の育成を目標とするならば、教会実習や病院などでの実習をさらに充実させる必要がある。」について、記述が求められる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。

「神学セミナー」の開催は神学研究科の特質を生かしたもので評価できる。一般の社会人への開放はなされているのであろうか。大学の理念として「キリスト教主義に基づく教育」を掲げているので、生涯学習やエクステンション・プログラムで広くキリスト教に関わる思想や文化を伝えていくことも有意義な試みであると思われる。